

Annual
Activity
Report
2019.1-2020.3



Orangutan
Research Center

NPO法人日本オランウータン・リサーチセンター

2019年度活動報告



樹上でくつろぐ妊娠中のリナ (2019年9月ダナムバレイで撮影)

おらけんレポート第4号

会員の皆様へ 代表 黒鳥英俊からのご挨拶

活動のお礼とご挨拶



日本オランウータン・リサーチセンター（おらけん）が任意団体として活動を開始してから4年目になりました。昨年より準備を進めていました特定非営利活動法人化（NPO）は、その後の関係各位のご尽力により、2019年6月9日付で内閣府より承認されました。ご協力いただきました皆様にあらためて感謝申し上げます。

NPO法人日本オランウータン・リサーチセンターとなって初めての年間報告書「おらけんレポート」をお届けします。本号では、2019年1月から2020年3月までの最新の活動状況をお知らせします。

2004年
ダナムバレイでの調査開始

2016年
任意団体設立

2019年6月
NPO法人認定

活動の目的・内容

活動目的：

ボルネオ島とスマトラ島に生息する野生のオランウータンおよび国内の動物園で飼育されているオランウータンを主な対象として、行動や生態、生息環境等に関する学術的基礎研究を振興する事業を行う。

研究支援活動を通じて、絶滅の危機に瀕するオランウータンの保全に貢献するとともに、オランウータンとその生息環境に関する研究成果を一般に普及啓発する事業を実施することで、絶滅の危機に瀕するオランウータンの魅力と現状を伝え、人と自然の持続可能な環境社会づくりに寄与することを目的とする。

活動内容：

(1) 国外の生息地における生態環境等の調査研究および保全に関する支援事業

(2) 国内動物園における調査研究および動物福祉に関する支援事業

動物園の
オランウータン

ボルネオ
オランウータン
(ボルネオ島)

スマトラオランウータン
タバヌリオランウータン
(スマトラ島)

(3) 講演会等による実情理解を深めるための教育普及事業

(4) ウェブサイトやニュースレター等の情報発信事業

(5) その他目的を達成するために必要な事業

2019年度にスマトラ・タバヌリ部門を新設（詳細は4頁）

2019年度 主な活動成果 《ダナムバレイ 調査報告》

■ 活動の紹介

私たちは、2004年に初めてマレーシア・サバ州にあるダナムバレイ保護区を訪れ、野生オランウータンの調査を始めました。15年経った今もオランウータンの行動や生態に関する研究を続けています。

ずいぶん長く調査しているな、と思われるかもしれませんが、オランウータンの成長は、「15歳くらいから性成熟が始まって寿命は50歳くらい」というように、まるで人間のような時間軸でゆっくり進みます。彼らの生活史を理解するには、15年の調査など彼らの人生の1/4程度で全然足りません。オランウータンを理解するには、これからも何十年にもわたる長期調査が必要なのです。

これまでの調査で、約63頭のオランウータンに出会い、そのうち、調査エリア周辺に生息する17頭は、長期間モニタリングができています。彼らが母親から独立して、少しずつ一人の生活に慣れ、やがて他の個体と関わっていく姿を見つめています。

■ 2019年のダナムバレイ

東南アジアの熱帯林には、フタバガキ科を代表する様々な樹種の木々が数年に一度、一斉に開花・結実する「一斉結実」という現象が起きます。2019年は、ダナムバレイでも大規模な一斉結実が起きました。私たちが調査してきた期間では、ダナムバレイでは、2005年、2010年に大規模な一斉結実が起こり、大規模な結実はじつに9年ぶりでした。

一斉結実になると、オランウータンたちは、この時期にしか実らない特別な果実を食べるために、せわしく移動して、果実を食べます。この時期にたくさん食べて脂肪を蓄え、これから数年続く果実欠乏期に備えるのです。妊娠が可能な状態にあるメスは、この食物が豊富にある時期を狙って繁殖し、妊娠します。2019年は4頭のメスが妊娠・出産しました。通常は、2-3年に一度くらい新生児が1頭生まれればよいくらいなので、これは極めて高い数字です。オスたちも、果実を食べるために、そして、妊娠可能なメスを獲得するために、周辺から集まってきます。いつもは単独で暮らしているオランウータンたちですが、この時期には旬の果樹や繁殖相手をめぐって移動するので、いつも以上に他個体との出会う機会がぐっと増えます。一斉結実は、果実はお腹一杯食べたいし、繁殖もしたいし、大忙しなのです。

■ TV局の撮影

そのような貴重な光景を、今回初めてNHKが撮影に成功しました（NHK BSプレミアム「マレーシア ボルネオ島 オランウータン 一斉開花の森に集う」）。実は、これまでに、国内外をあわせて数社のTV局プロデューサーから、「一斉結実の様子を撮影したい」と問い合わせがありました。しかし、たいていは撮影時期と一斉結実の現象のタイミングが合わずに諦めてきました。今回のTVクルーは、最高のタイミングで撮影に入り、一カ月以上みっちりオランウータンの後を追ったので、一斉結実の様子やオランウータンの活動がたっぷり映像に残りました。私たちもプロの方々撮影した映像を壮大なスケールで再確認することができて、大変良い経験になりました。

■ 新型コロナウイルス感染症による影響のお知らせ

マレーシアでは3-5月の間に活動制限令が実施され、ダナムバレイ保護区では人の出入りが禁止になり、オランウータンの調査も一時中止になりました。現在は、6月からの活動再開にあわせて、私たちも少しずつ調査を再開できています。詳細は毎月発行されるニュースレターでお知らせいたします。

■ 支援金へのお礼

皆さまからお預かりした支援金は、オランウータンの調査活動に伴う現地アシスタントの給与や調査機材の購入などに使わせていただいております。皆様のご支援のおかげで、貴重な一斉結実の時期に、3人のアシスタントを雇用して、万全の調査体制で追跡調査をすることができました。皆様の温かいご理解とご支援に、関係者一同、心より感謝申し上げます。



2019年度 主な活動成果 《スマトラ・タバヌリ 部門新設》

■ ■ <スマトラ・タバヌリ部門新設>

今年度よりおらけんは新たに「スマ・タバ部門」を新設しました。「スマトラオランウータン・タバヌリオランウータン関連部門」を略して「スマ・タバ部門」です。2019度は主に2つの活動を行いました。

・スマトラオランウータン、タバヌリオランウータンに関する情報収集

・現地オランウータン支援保護各団体と連携し、保全保護の現地情報発信、現地団体を日本に招聘しての講演会・企画展実施

※講演会・企画展は公益信託地球環境日本基金の助成をうけて実施

<北スマトラ視察・情報収集>

2019年の2月におらけんの理事とスタッフの有志と、国内のオランウータン飼育担当者などで北スマトラの視察を行いました。現地保護団体SOCPとOICを訪問し、保護活動の様子を視察したり、プレゼンテーションを受けました。またスマトラオランウータン・タバヌリオランウータンの生息地を訪問したりしました。その後も北スマトラに関するご縁などがつながり、活動の下地ができました。

<来日講演会>

スマトラオランウータンの研究者、マシュー・ノヴァク氏を招き、スマトラ講演会を開催しました。



マシュー・ノヴァク氏…10年以上に渡り東南アジアの野生の類人猿の生態を研究、また近年はスマトラ島北部でテナガザルやオランウータン等の研究を行っています。

SOCP(スマトラオランウータン保全プログラム)に所属し保全活動にも力を注いでいます。一昨年新種と認定されたタバヌリオランウータンをはじめとするスマトラ島に生息する類人猿の研究とともに、野生生物と人間の軋轢など現地の事情や保全について活動されています。

■ ■ 11月16日(土):第22回SAGAシンポジウム

@愛知県犬山市,日本モンキーセンター

おらけん”特別セッション招待講演

マシュー氏「スマトラ島における類人猿の調査研究および保全活動に関する報告」

東山動植物園 武田氏「スマトラ島を訪ねて～動物園で実践したこと、伝えたいこと」

ブース販売&寄付報告

当日チャリティTシャツ販売と募金箱を設定しました。

おかげさまで【募金:28,038円】【Tシャツ販売金:24,500円]ものご寄付が集まりました。【総額:52,538円]はすべておらけんからSOCPへ寄付しました。

■ ■ 11月17日(日):東山動植物園の動物会館レクチャーホールにて講演会

「スマトラ島のオランウータンとテナガザルー最新の研究成果と生息地の現状ー」

小川珈琲協賛 参加者にオランウータンコーヒーの紹介&プレゼント

2日間とも立ち見が出るほどの満員の会場でした。講演はおらけん理事の黒鳥のご挨拶から始まり、映像を交え、おらけんの活動やスマトラ島について、SOCP(スマトラオランウータン保全プログラム)を紹介しました。

マシュー・ノヴァク氏の講演は、スマトラ島のテナガザルやオランウータンの生態、生息地の環境の変化について、タバヌリオランウータンの生息地を脅かすダム建設のレポート、彼らを絶滅させないためのアイデアなど興味深く有意義な内容でした。活発な質疑応答もあり盛況のうちに終了しました。司会はおらけんの金森、通訳は田島が担当しました。



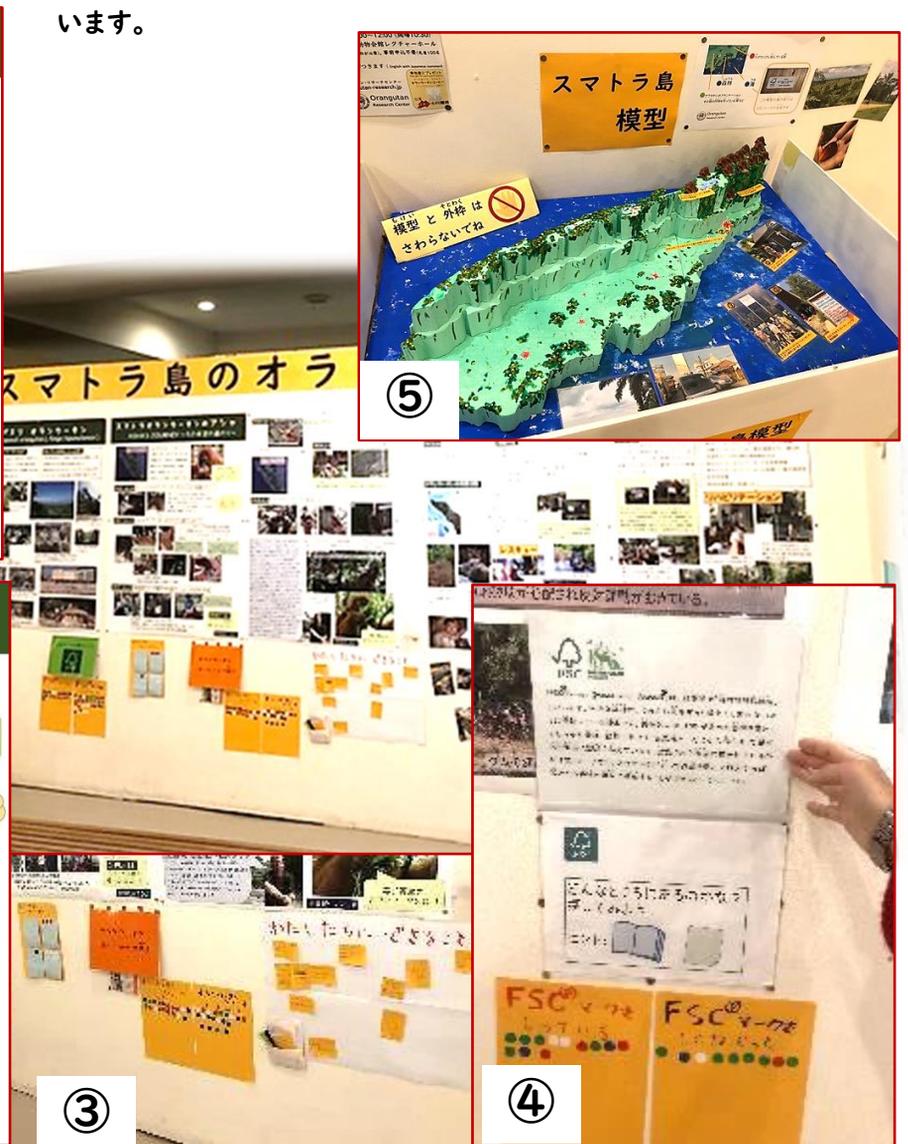
■ Date / 2019年11月17日(日) 11:00~12:00 (開場10:30)
 ■ Venue / 名古屋市東山動植物園 動物会館レクチャーホール
 ■ Fee / 無料(飲食料金は別途)※動物園入場料は別途、事前申込み不要(100名)
 ◆ 講演は英語ですが、日本語の解説がつきます。(English with Japanese comment)
 ◆ 内容は小学校高学年以上向けです
 ◆ 問い合わせ先: JPO(日本オランウータン・タバヌリセンター)事務局
 E-mail: info@orangutan-research.jp
 東山動植物園
 Research Center
 (C)Japan Orangutan Research Center

2019年度 主な活動成果 《展示①》

■ 2019年10月14日(月・祝)から12月15日(日)

愛知県犬山市/日本モンキーセンターのビジターセンター内で企画展「スマトラ島のオランウータン展」を行いました。この企画は、2019年2月におらけんスタッフがスマトラ島を視察した際に訪問した、現地保全団体SOCP (スマトラオランウータン保全プログラム)とOIC (オランウータン情報センター)にご協力いただき実現しました。

企画展は6枚のポスターでスマトラ島の概要、タパヌリオランウータンについて、SOCPとOICの現地での保全活動と保護されたスマトラオランウータンの救出から野生復帰までの事例を紹介、そしてスマトラ島の立体模型で構成されています。



- ①②: 2017年に新種として記載されたタパヌリオランウータンや、スマトラ島北部のアチェ州で大けがを負って保護されたスマトラオランウータン「アシャ」の紹介をしました。
- ③④: 来場者が参加できる展示も用意しました。「オランウータンコーヒーを知っていた or 知らなかった」「FSCマークを知っていた or 知らなかった」「オランウータンのためにできることを書いてみよう」という問いにシールやポストイットで回答する方式です。
- ⑤: 本展示の目玉、スタッフ自作の「スマトラ島立体模型」。島の特徴である極端な標高差と土地利用がひと目で分かります。濃い緑色が森林、薄い緑色が畑などに利用されている土地、赤色が人口密集地を表現しています。

2019年度 主な活動成果 《展示②》 メイキング・オブ・ スマトラ島模型

■ 前ページでご紹介したスマトラ島模型の製作の様子を
少しだけご紹介します。



①材料は厚みのある発泡スチロール。



②標高ごとに3段階に分けたスマトラ島地図
をもとに、発泡スチロールを島の形にカット。



③下地として緑色に色塗り。



④木製の合板にも色を塗り、海を作成。
(合板はFSC認証木材です)



⑤地図を基に、森林や人口密集地をマジックで
塗り、完成!!



※この模型は日本モンキーセンターでの展示を終え、現在はスタッフ自宅で次の出番を待っています。

2019年度 主な活動成果 《講演会》

▽2019年

■ 2月16日(土)：講演会「動物たちの最後の楽園 ルーセルの熱帯林を守ろう」黒鳥が講演しました

■ 2月23日(土) 公開講演会 「第7回オランウータン倶楽部」久世が講演しました

■ 3月30日(土)：市民講座「森の哲人オランウータン～ボルネオ島からの報告」久世が講演しました

■ 4月14日(日)：京都市動物園のイベント「野生動物学のすすめ」で田島と黒鳥が講座に登壇、またおらけんのブース出展をしました

■ 5月21日(火)：大阪 天王寺動物園近くGallery Cafe*kirinに「おいて、代表の黒鳥がシベットコーヒー、インドネシアのお菓子付でのイベントを行いました

■ 8月31日(土)：「第31回東山再生フォーラム」名古屋市 東山動植物園 動物会館において、「オランウータンってどんな『ヒト』」と題し、国立科学博物館人類研究部 久世が講演を行いました

■ 11月16日(土)&17日(日)：新設された「スマトラ・タバヌリ部門」の活動として、スマトラオランウータンの研究者、マシュー・ノヴァク氏を招き、「スマトラオランウータン・タバヌリオランウータン」に関する講演会を、2か所の会場で共催しました。

(※詳細は4頁参照)

■ 12月14日(土)&12月22日(日)：『正解は一つじゃない～子育てする動物たち』出版記念として、久世が講演しました

▽2020年

■ 1月18日(土)：ボルネオ保全トラスト・ジャパン主催講演会「オランウータンのこと全部話します！ボルネオ、スマトラ、タバヌリ」

BCTJ(NPO法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン)理事とおらけん(NPO法人オランウータン・リサーチセンター)の代表を務める黒鳥の講演会が、昨年訪れたスマトラ島、おらけんの研究者の調査地であるボルネオ島のダナムバレイでのオランウータンの様子など、野生のオランウータンの魅力を伝える講演を行いました

2019年度 メール マガジン

「おらけんマガジン」発行

▽2019年

1月1日号、2月5日号、8月1日号、8月13日号、10月2日号、10月22日号、11月25日号

▽2020年

1月5日号、1月23日号、2月15日号、2月27日号、3月31日号
(通巻5号より16号を発行)



2019年度 主な活動成果 《メディア・出版》

■ ■ 【理事出演】NHK Eテレ『又吉直樹のへうレーカ!』放送
2019年2月6日(水) 午後10時00分～ 午後10時45分

「群れない生き方、わかりますか?」と題した番組で久世が解説しました。

■ ■ 【理事出演&監修】NHK BSプレミアム
『マレーシア ボルネオ島 オランウータン 一斉開花の森に集う』放送
2019年10月28日(月) 午後8時00分～ 午後9時00分

マレーシア・ボルネオ島にあるダナムバレイ保護区に生息するオランウータンを撮影したドキュメンタリーです。オランウータンだけでなく、調査の様子や研究者らの姿がTV番組として放送されました。

NHKオンデマンドで配信中です。

<https://www4.nhk.or.jp/wildlife/x/2019-10-28/10/24277/2527300/>

■ ■ 【理事編集&スタッフ執筆】

書籍名『正解は一つじゃない-子育てする動物たち』

【編集】齋藤慈子・平石界・久世濃子

【監修】長谷川真理子

【発行】東京大学出版会【発行日】2019年10月31日

【価格】定価2600円(税別)

「10章ママのワンオペ孤育て——オランウータン」をおらけん理事の久世が執筆。ゴリラやチンパンジー、イルカやペンギンなどの様々な動物たちの子育てを、研究者が最新の情報を交え紹介します。久世が編集も担当し、おらけんスタッフ蔦谷も「2章ヒトという動物の子育て」を執筆しています。

■ ■ 【理事執筆】書籍名『オランウータンに会いたい』

【著者】久世濃子

【発行】あかね書房【発行日】2020年3月

【価格】定価1300円(税別)

理事の久世濃子が3冊目を書きあげました。児童書でありながら、自然人類学的な知見も盛り込まれていて、子供から大人まで楽しめる本です。

*書籍は書店、Amazon等で好評発売中です。

■ ■ 【理事出演】アマゾン(キンドル)第11回 金森隊長の特別講義

「『森の人』オランウータンをもっと知ろう」

アマゾン(キンドル)から金森のデジタル書籍が発売されました!

<https://www.amazon.co.jp/dp/B07VM8BJKZ/>

「なつ教授の霊長類学入門」シリーズは、霊長類研究者と、黒ラブラドルのなつ教授との共同講義です。

【価格】529円 Kindle 価格

【販売者】エトヴァス・ノイエス

■ ■ 【理事執筆】人類学若手の会の機関誌『Anthropological Letters』7号

田島が執筆した研究紹介「オランウータンの父親さがし」掲載

■ ■ 新聞掲載

久世がインタビューを受けた内容が掲載されております。

日経DUAL

・インタビュー記事「子育てのモヤモヤはすべてサルから説明できる」

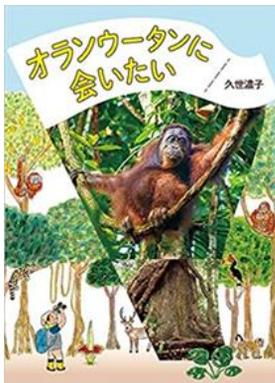
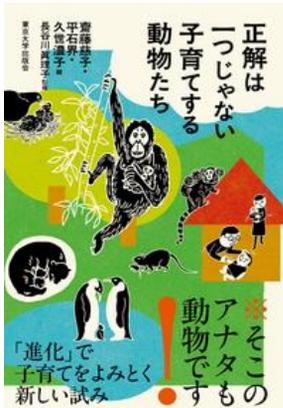
朝日新聞

・2020年1月5日朝日新聞GLOBE(日曜版)「『孤独』を極めるオランウータン」

毎日新聞

・2020年2月6日「カップ麺とオランウータン」

・2020年2月27日から毎木曜日 3回連続「森の哲人 研究20年」



2019年度 主な活動成果 《学会等での 研究発表》

▽2019年

1月26日(土) - 27日(日)「第63回プリマーテス研究会」@日本モンキーセンター(愛知県)

■ ■ 金森:「カメラトラップを用いて確認されたダナムバレイ森林保護区における中大型哺乳類相と一斉結実による影響」口頭

■ ■ 中村:「タロウさんに、もっと楽しんでもらいたい!~京大モンキーキャンパス・エンリッチメントサークル2年目の活動~」・「オランウータン・ジプシーの歯周組織検査」ポスター

2月16日(土) 13:30-17:00「動物園研究会2019年第1回『動物園飼育のあり方・考え方の変遷—ベテラン飼育係に聞く』」@東京都・日本大学歯学部3号館3階講堂

■ ■ 黒鳥:日本の動物園での大型類人猿の飼育史について発表しました。

3月2日(土) 13:30-17:00「Middle to large mammalian fauna in Danum Valley with camera trap and influence by fruit availability」@京都大学PWS シンポジウム

■ ■ 金森:ダナムバレイにおける陸上哺乳類相を調べるために仕掛けたカメラトラップの結果について発表しました。

7月12日-14日「第35回日本霊長類学会大会」@熊本市国際交流会館

■ ■ 中村:「ハズバンドリートレーニングによるオランウータンの口腔内診査法の開発」口頭

■ ■ 久世:「スマトラ島に生息するオランウータン2種の現状と保全活動に関する報告」ポスター

■ ■ 田島:「ダナムバレイに生息する野生ボルネオオランウータンにおけるオスの繁殖成功」ポスター

11月16日(土) 第22回SAGAシンポジウム@日本モンキーセンター

■ ■ 久世:「自然死の可能性が高い、野生オランウータンの遺体発見2例の報告」ポスター

■ ■ 中村:「オランウータン臓器の病理学的考察」ポスター

▽2020年

1月25日(土) - 26日(日)「第64回プリマーテス研究会」@日本モンキーセンター(愛知県)

■ ■ 金森:「ボルネオ島ダナムバレイ保護区における果実生産量とオランウータンの密度—2019年に起きた一斉結実を含む15年間の季節変化—」ポスター

■ ■ 田島:「ボルネオオランウータンのメスの発情はオスのテストステロン値を上昇させるか」ポスター

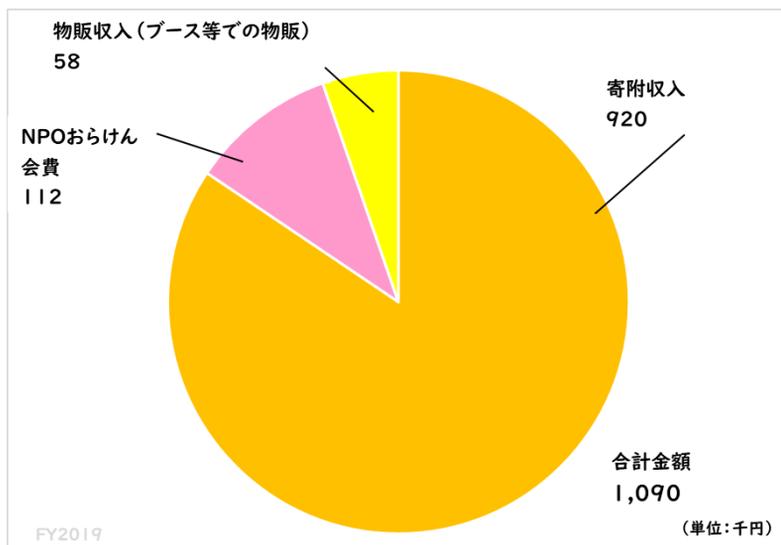
■ ■ 中村:「キシリトールを用いたオランウータン予防歯科の試み」ポスター



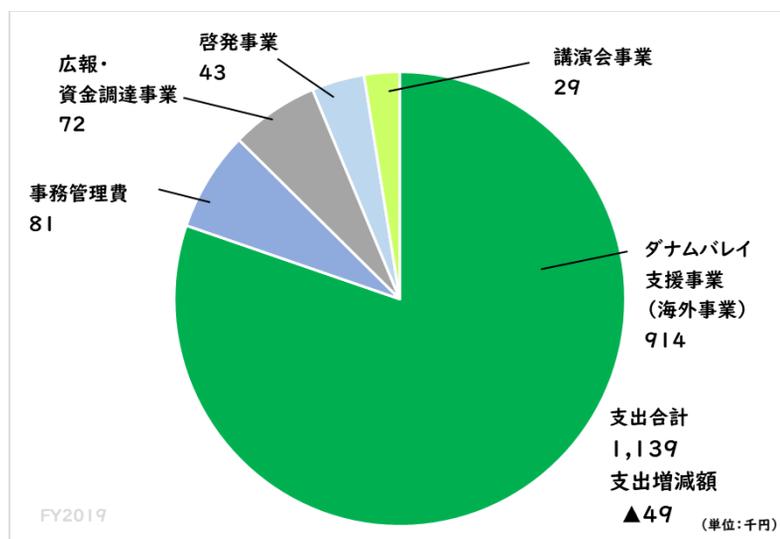
2019年度 寄付・会費収支報告



寄付・会費・物販収入 2019.1.1-2019.12.31



活動支出 2019.1.1-2019.12.31



ダナムバレイ支援内訳 単位:千円	
被服費 (ユニフォーム)	66
調査助手給与	772
調査用具	76
合計	914

皆様のご寄付のおかげで2019年もダナムバレイ調査支援を含む活動を行うことができました。ご支援に心より感謝申し上げます。

寄付について

日本オランウータン・リサーチセンターの活動は、皆さまからのご支援で成り立っています。いただいたご支援は野生オランウータンの調査研究（調査助手の件費、研究道具の購入など）や、講演会の開催への支援等に活用させていただきます。ぜひ会員・サポーターに申し込みいただき、ご支援をお願いします。

下記からご希望の会員/サポーターの種類を選んでください。
寄付サイトconggrant.comのサイト (<https://conggrant.com/project/orangutan/1077>) からアクセスできます。クレジット決済と口座振替からお選びいただけます。

会員になる

- ・賛助会員
会費 6000円/年
※活動理念に賛同し、
団体の活動を応援・支援



寄付をする

- ・都度寄付/1回限り
※任意の金額



- ・マンスリーサポーター(継続寄付)
500円以上/月
※NPOの活動を、月々少額で
寄付継続的にサポート



直接寄付(郵便振替)もご利用いただけます

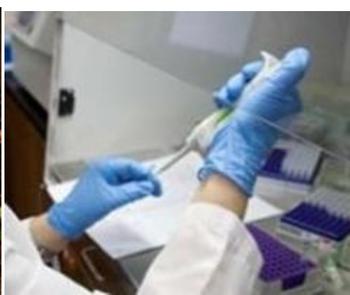
加入者名:NPO日本オランウータンリサーチセンター
トクヒ)ニホンオランウータンリサーチセンター

<ゆうちょ銀行からの振り込み>
口座記号番号:00100-5-673954

<ゆうちょ銀行以外からの振り込み>
店名:〇一九店(019)
預金種目:当座
口座番号:0673954

金額にかかわらず、ご寄付いただいた皆さんには、下記の特典をご用意しています。

- ・ メールマガジン「おらけんマガジン」の配信(毎月発行)
 - ・ 活動報告書を配信(年1回発行)
- ※年間6000円以上ご支援いただいた方には、オランウータンのベストショット1枚を配布(年1回)



助成金

2019年度は、以下の助成を受けました。

◇ 公益信託地球環境日本基金

また、2020年度の予算として以下の助成が決定いたしました。

◇ 公益信託地球環境日本基金(継続)

◇ 独立行政法人環境再生保全機構/地球環境基金

◇ 公益財団法人イオン環境財団

◇ 公益信託経団連自然保護基金/経団連自然保護協議会

◇ 東京動物園協会 野生生物保全基金

編集後記

ニュースレター4号は2020年4月の発行を予定していましたが、当初予定より発行が遅くなってしまいました。お待たせしてしまった皆さん、申し訳ありません。下記ブログ、Facebookページでも随時、最新情報を発信しています。ぜひ「いいね!」してフォローお願いします!

ブログ:<http://orangutan-research.sblo.jp/>

Facebookページ: <https://www.facebook.com/orangutan.research/>

発行日 2020年07月5日

発行: 日本オランウータン・リサーチセンター

URL: <http://orangutan-research.jp/>

E-mail: info@orangutan-research.jp

※本ニュースレターの文章・画像等の内容の無断転載及び複製等の行為はご遠慮ください。

【編集担当者より】

▼おらけんレポートは如何でしたでしょうか。この一年の活動をわかりやすく伝える紙面づくりを、何度も相談を重ねながら進めました。大変ではありましたが、活動を振り返る作業はとても楽しいものでした。皆様も楽しんでいただけたらうれしいです。新しい年度が先の見えないコロナ禍の中で始まりましたが、引き続きよろしく願いいたします。(那須)

▼幼少期に家族でシンガポール動物園に行ったとき、名物の「オランウータンと朝ごはん」に参加しました。隣に座ったオランウータンの耳があまりに人間と同じなことにビックリし、思わずつまんで引っぱって見たら職員の方に慌てて止められた、私のオランウータンにまつわる一番古い思い出はそれです。

まさか20年後に、このような形でオランウータンと関わることになるとは想像もしていませんでした。この活動報告編集からおらけんに関わりましたが、これからオランウータンとヒトの懸け橋として活動できることを考えるとワクワクが止まりません。

これからもどうぞよろしく願いいたします。

最後までお読みくださり、ありがとうございました。(内藤)